

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 015

(2019/20年度 USDA 米国農務省 10月10日発表)

[ハイライト] ①今月号の最大のニュースは、米中貿易協議進展の期待から大豆を中心にシカゴ定期が大幅に上昇したことである。11日の米国側発表で中国は米国産大豆/豚肉等を400-500億ドル購入するとした結果を受け、大豆は一時年初来高値の\$9.40/buまで高騰した。②米国はこれを「歴史上最高」の合意として交渉の成果を強調しているが、最も根本的な知的財産侵害問題/中国企業優遇制度等の協議進展は疑問視されその影響で農産物購入も着実に履行されるかも不透明な部分がある。③中国/アジア全域に拡大しているASFは防疫体制が不備な広範な零細農家(中国:年間出荷99頭以下98%)の存在と有効なワクチン開発の目途が立たないこと等から収束の兆しが全く見えず5-10年を要する長期戦の可能性大。④中国大豆輸入量は昨年8月のASF発生以来今年度85百万トと一昨年94百万トから大幅減少見通しだが、肉豚飼養頭数がこのまま3割減少(4.3⇒3億頭)すれば年明けには更に1千万ト単位で減少することも想定される。⑤今月は穀物/大豆生産と海上輸送量を押上げている世界的な食肉生産の増大について別紙に特集している。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

- ① 生産量: 2,660 百万ト (前年比 1.3%増、前月比 0.1%増)
- ② 消費量: 2,663 百万ト (前年比 0.8%増、前月比▲0.1%)
- ③ 貿易量: 427 百万ト (前年比 ▲0.2%、前月比▲0.9%)

2、とうもろこし

- ① 生産量: 1,104 百万ト (前年比 ▲1.7%、前月比▲0.1%)
- ② 消費量: 1,125 百万ト (前年比 ▲1.3%、前月比▲0.2%)
- ③ 貿易量: 167 百万ト (前年比 ▲6.4%、前月比▲2.0%)
- ④ 概況: 生産/消費量とも前月比微減。天候不順の為歴史的な作付遅延となった米国は収量が168bu/acre(前年比▲8bu)まで持ち直した。貿易量はUS産が前年比▲4百万トのため全体数量も1千万ト近く減少した。
価格は\$3.85/Bu(前年\$3.68/Bu、前月\$3.43/Bu)と前月比¢42上昇した。

3、小麦

- ① 生産量: 765 百万ト (前年比 4.8%増、前月比変わらず)
- ② 消費量: 755 百万ト (前年比 2.5%増、前月比▲0.2%)
- ③ 貿易量: 180 百万ト (前年比 3.8%増、前月比▲0.6%)
- ④ 概況: 生産/消費/貿易量とも前年比すべて拡大。特に生産量はEU/UKR等の増産で3千万ト強増加。貿易量は北アフリカ/東南アジア/パングラデッシュ等の需要増で前年比約1千万ト増加し裾野が広がっている。
価格は\$4.90/Bu(前年\$5.21/Bu、前月\$4.60/Bu)と前月比¢30上昇した。

4、大豆

- ① 生産量: 339 百万ト (前年比▲5.5%、前月比▲0.7%)
- ② 消費量: 352 百万ト (前年比 2.0%増、前月比▲0.3%)
- ③ 貿易量: 149 百万ト (前年比 0.5%増、前月比変わらず)
- ④ 概況: 世界生産量は前年比BRA6百万ト増産⇒123百万トしたものUSは▲27百万ト⇒96百万トまで下落し最終的に2千万ト減した。他方貿易量は中国減少あるものの東南アジア/メキシコ等の増で前年比微増。
価格は\$9.16/Bu(前年\$8.69/Bu、前月\$8.45/Bu)と前月比¢71上昇した。

注1) 上記1の「穀物」は小麦・粗粒穀物(とうもろこし含む)・米の合計量

注2) 価格は、シカゴ商品取引所における各月第一週週末の期近価格

世界の穀物・大豆等の需給

2019年10月11日
米国農務省発表：単位100万トン

主要穀物世界の需給						
	生産量		総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量
	2017/18	2018/19				
全穀物			2,616	3,414	414	2,597
	2018/19	2019/20	2,626	3,442	428	2,642
小麦	9月	10月	2,656	3,461	431	2,666
	2017/18	2018/19	2,660	3,460	427	2,663
粗粒穀物 (とうもろ こし等)			762	1,025	182	742
	2018/19	2019/20	731	1,014	173	736
大豆	9月	10月	766	1,043	181	756
	2017/18	2018/19	765	1,043	180	755
注1			1,359	1,744	185	1,373
	2018/19	2019/20	1,396	1,767	209	1,416
	9月	10月	1,396	1,752	205	1,416
	2017/18	2018/19	1,397	1,748	201	1,414
			342	437	153	338
	2018/19	2019/20	359	458	149	348
	9月	10月	341	454	149	355
	2017/18	2018/19	339	449	149	354

世界のとうもろこし需給						
	期首在庫		生産量	輸入量	国内計	輸出量
	9月	10月				
世界計	329.55	324.03	1,104.88	169.44	1,128.16	169.90
アメリカ	62.12	62.12	350.52	1.27	306.21	52.07
アルゼンチン	53.71	53.71	350.01	1.27	307.74	48.26
ブラジル	4.09	4.09	50.00	0.01	15.00	33.50
EU	4.09	4.09	50.00	0.01	15.00	33.50
日本	5.49	5.49	101.00	1.00	68.00	34.00
中国	7.28	7.28	101.00	1.00	67.00	34.00
インド	7.25	7.25	64.80	21.00	82.50	2.00
ロシア	7.55	7.55	64.80	21.00	82.50	2.00
韓国	1.40	1.40	0.00	15.60	15.60	0.00
タイ	1.40	1.40	0.00	15.60	15.60	0.00
中国	211.84	211.84	254.00	7.00	277.00	0.02
ウクライナ	211.84	211.84	254.00	7.00	277.00	0.02
ロシア	1.87	1.87	49.00	0.06	14.80	34.70
インド	1.17	1.17	49.50	0.06	14.50	35.20

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。
脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

世界の大豆需給						
	期首在庫		生産量	輸入量	国内計	輸出量
	9月	10月				
世界計	112.41	109.87	341.39	148.20	353.41	149.39
アメリカ	27.36	24.85	98.87	0.54	61.04	48.31
アルゼンチン	29.35	29.20	53.00	3.90	52.15	8.00
ブラジル	28.20	28.84	123.00	0.20	46.50	76.50
中国	19.74	19.74	17.10	85.00	102.70	0.13
EU	1.14	1.14	2.60	15.10	17.56	0.23
インド	1.14	1.14	2.60	15.10	17.56	0.23

世界の小麦需給						
	期首在庫		生産量	輸入量	国内計	輸出量
	9月	10月				
世界計	277.24	277.68	765.53	176.79	756.26	180.83
アメリカ	29.18	29.39	53.89	3.67	32.60	26.54
アルゼンチン	1.89	1.83	20.50	0.01	6.05	14.50
オーストラリア	4.97	4.97	19.00	0.15	8.50	10.50
カナダ	6.18	5.92	33.30	0.45	9.60	24.50
EU	10.09	10.00	151.00	5.50	127.50	27.50
中国	139.77	139.77	132.00	3.20	128.00	1.30
インド	16.99	17.11	102.19	0.02	98.00	0.50
ロシア	7.83	8.25	72.50	0.48	39.50	34.00
ウクライナ	1.59	1.59	28.70	0.08	9.40	19.50
韓国	1.59	1.59	28.70	0.08	9.40	19.50

穀物生産と海上輸送数量を押し上げる世界の食肉需要の増大

① この20年間の穀物生産増大とその海上輸送数量の拡大の歴史的経緯についてはこの間述べたが、そもそも最大の要因は、世界人口の爆発的増加と穀物を大量消費する世界的な食肉需要の増大にあると言える。

② 食肉生産1kgに必要な穀物数量は、様々な捉え方があるが「飼料要求率」をベースに畜種別に概算すると【牛肉=10kg、豚肉=4kg、鶏肉=3kg、鶏卵=2kg】と評価される。

③ 昨年の世界の配合飼料生産量は、業界紙によれば約11億トンという膨大な数字であるが、これは人間が主に食する小麦7億トン+米5億トンに匹敵する数字である。一方配合飼料原料は、畜種平均してコーン50%、大豆粕15%、マイロ/麦類/米10%、ふすま等麦副産物8%その他であるが、この結果コーンで5.5億トン、大豆粕で1.7億トン使用され、これが全体の穀物/大豆生産を拡大させている大きな要因となっている。

④ 別表の通り、2001年以降の20年間で世界の食肉生産量は、246百万トン⇒336百万トンと90百万トン増(136%)、特に人口大国の中国は+23百万トン/ブラジル+9百万トン/インド+5百万トンと伸びは著しい。また、先進国のEU+6百万トン/US+8百万トンと、大きく底上げされている。絶対量では中国89百万トン、share27%と突出し消費量も含め「食肉大国」として存在感が大きい。

⑤ 畜種別生産量は、2019年で見ると牛肉72百万トン/豚肉128百万トン/鶏肉116百万トン(枝肉ベース)その他羊・ヤギ・馬等。消費量は健康/低価格志向から牛肉⇒豚肉/鶏肉にシフトされつつある。また、食肉とは別に鶏卵生産72百万トンも含めた平均飼料給餌量は食肉1kg当り約3kg弱(11億トン÷4億トン)で少ないが、②との関係では、肉牛は南米/豪州を中心に牧草飼育が一般的なことと、生産現場では配合とは別に統計に表れない地場のコーン/麦類等を入れた「自家配合」数億トンの存在が推測される。

